

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400626), 法人名 (有限会社 ハートウォーミング), 事業所名 (グループホームあさひ), 所在地 (札幌市西区発寒14条3丁目6-16), 自己評価作成日 (平成26年10月20日), 評価結果市町村受理日 (平成26年12月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で職員の居ることがわかる環境を作り安心して暮らしていただけるよう支援している。日中の休息も個々の体調に合わせて安楽に過ごせる環境を整えている。入浴は毎日できる。食事は手作りしている。看護師もいて健康管理にも注意を払っている。職員研修も実践者研修や初任者研修、日々のミニ勉強会や月一度の研修会などでスキルアップを図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2013\_022\_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170400626-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月1日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあさひは、開設から13年目を迎える事業所である。設立時からの入居者もおり穏やかな暮らしの中に、2名の看護師が常勤することでの医療連携の安心を感じられる事業所である。利用期間が長い利用者が多く、重度化も進んでいるため、職員のケアの技術的な向上にも取り組んでいる。事業所特に力を入れているのが入浴の支援である。毎日入浴ができ、寝たきりになっても1日おきのシャワー浴や清拭で血行を促進し、リラックスできるようにしている。風呂上りの時間も大切に、他の利用者と脱衣所などで一緒にならないよう動線を工夫し、職員と利用者の一対一の時間におしゃべりや整容をゆっくり楽しむことができるようにしている。さらに、認知症の進行などにより意向の表出が難しくなる利用者の気持ちを理解し、どのように個別支援を充実させていくかについて、職員が会議で活発な意見を交わしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff efforts.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い理念に基づいたケアが実践されるよう取り組んでいる	事業所独自の理念を作成し、職員が毎日唱和している。事業所内に理念を掲示するとともにパンフレットにも掲載して事業所として目指す方向性を外部に対しても表明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自宅で採れた野菜をいただいたり除雪の協力をいただいている	町内会行事や、高齢者向けの体力作りなどの催しに利用者と一緒に参加している。また、中学校の職場体験や小学生のボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には受けていないが実習の依頼があれば受けている(中学校の職場体験学習や初任者研修等)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 定例日を設け情報提供して意見をいただきサービス向上に努めている	運営推進会議は定期的開催し、議事録を家族に送付している。会議メンバーの高齢化により、参加者の減少が課題となっている。	運営推進会議の議事録を作成し、話し合った内容を家族と共有する工夫を行っている。しかし、事業所と地域との関係構築や事業所のモニター役として等会議の目的を明確化し、参加の促しの工夫が期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの連絡には目を通し確認している。報告必要事項には報告している	運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、情報の交換をしている。行政主催の研修や会議にも参加し、適切な運営ができるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束については言葉の拘束も含め伝えている 玄関の施錠は夜勤の勤務者が一人になるときのみ施錠している	身体拘束のマニュアルがあり、日常のケアの中でも職員に浸透するように伝えている。言葉で利用者の行動を制限していないかなど、職員同士で話し合い、拘束に当たるケアがないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の発赤(内出血)にも注意を払い、身体機能低下(血管の抵抗力の低下)の方の力加減も伝え合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人利用の方が数名いる 家族さんの環境変化でキーパーソンが変わることもあるが、日々の出納はホームで行うが財産管理は後見(家族)の方が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度の変更など面接・文書で伝え同意を得ている(重要事項説明書の押印)		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが記載はない 外部評価などで意見を表現して戴いている また面談の中でも意見を聞いても、ケアプランやあさひ便りでも様子がわかり安心しているといわれる	家族の来訪時に利用者の様子を伝えて意向を聞いている。また、3カ月ごとに利用者の写真を掲載した事業所便りを送付している。家族の状況により、電話や文章で利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・アンケートなど積極的に職員の意見を表出する機会を作って見直しをしている	業務の流れやソフトなどについても職員の意見を取り入れ、利用者の満足に繋がるよう全員で取り組んでいる。職務分担やモチベーションが上がるよう、話し合いや勉強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金アップや手当の導入や研修に参加などやる気やスキルアップへの支援もしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝のミニ学習会や、外部研修に出している 日々業務の中でも積極的に指導しケアの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区管理者連絡会の勉強会には参加可能な職員は参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報や入居時に本人の思いを聞きよい関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている(入居前に家族の訪問を受け面談し申し込み受けている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本ホームで必要なサービス支援をしている(安全に過ごせる環境の整備・家具他)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カーテンの開け閉め・洗濯物量・お茶入れ・お茶後の片づけ等出来ることの力を見て共同している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助など家族さんができるところは協力をもらっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々自宅へ帰る・行きつけの床屋に行くなど家族支援がある	家族への電話の支援や、知人への年賀状の代筆を行っている。また情報が分からなくなった家族の連絡先を探すなど、利用者に合わせて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を隣同士にして声掛けしやすい距離にしたり、居室訪問は見守るなど関係を壊さない支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後で情報提供を求められた方には協力している。家族が遠い方の代理出席(大学へ献体された方の、合同慰霊祭出席)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの表出がある方には都度対応している(連絡先の確認・化粧品の買い物・外出行事参加の確認など)	意向の表出が難しい利用者でも、問いかかけの言葉を工夫したり、表情などの様子を見ながら気持ちを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や居宅支援事業所や介護施設の情報をいただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別能力を確認して寝たきりにさせない・必要な休息はとる支援をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの見直しや、日々の生活での現状に即した支援をしている	介護計画では利用者が安心して暮らせるよう、介護の視点と医療との協力を両輪として、他者とのつながりなどの交流も大切にしたい日常が送れるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生かしている。記録から様子が見える様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの合同バーベキューやクリスマス会などの行事を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園での時間を持つことで楽しむ方もおります 入居者の身体機能低下で地域行事への参加は少なくなった		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・メンタルクリニック・泌尿器科など受診している	かかりつけ医の通院は家族対応で行っているが、看護師資格のある管理者が同行する場合がある。利用者の希望により訪問医を利用することもできる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2名いて介護も兼務あり情報は日々確認して必要な支援につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っているが、診断結果で退院後の受け入れ困難な方もいて、ソーシャルワーカーに一任した方もいた		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医には看取りの協力を依頼している。家族さんも同意されている方は看取りへの支援を行う予定である	事業所の指針と同意書があり重度化や終末期支援は本人と家族の希望を確認し、医療と連携しながら実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年採用の職員は対応が不十分と思われるが、施設研修や日々の学習指導を通して実践力の向上に努めている。緊急連絡できる体制はとってある(看護師に連絡 2人とも500メートル以内に住んでいる)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難先は学校が近い、災害の状況判断で施設内での避難もある。運営推進会議の地域代表の方の協力をお願いしている	避難訓練は夜間想定で行っている。机上訓練をほぼ毎月実施しており、職員全員が非常時に対応できるよう検討を行っている。	年度内に避難訓練の実施が計画されている。実施に際しては近隣などの地域からの参加を呼び掛け、より実践的な訓練となることが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気配りしている、不適切と思える言葉使いには、都度注意をしている	入職時の新人オリエンテーションの際に、言葉がけなどの接遇について項目に沿って学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いは表現していただけるよう関わるようにしている。心情を理解し気持ちよく安心できる支援方法を検討し、速やかに対応するよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の入浴は本人の意向を聞いている拒否の方には、シャワー浴・清拭着替え・入浴休みなど支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧は日課としている方は継続(不足なもの購入) 服の購入は支援不可能な方には職員が見立てるなどで購入支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立への意見は聞くこともあるが、身体能力の低下で一緒に活動できる方は少なくなった 座位でできることは一緒に参加していただいている(ホットケーキ・お好み焼き作りなど)	事業所の畑で収穫した野菜が食卓に並ぶなど、季節を感じさせる献立の工夫をしている。毎週月曜日は利用者と一緒に簡単な調理を行うなど、利用者の力量に合わせて楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況のチェック・水分チェックで脱水にならないよう把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎・虫歯のリスクの高い方には毎食後口腔ケアを実施している すべての方には寝る前には全介助・一部介助・言葉かけを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を心掛け声掛けしている お茶・食事前のトイレへの声掛けやチェック表を参考に支援している	排泄チェック表を活用し、失敗をしないよう声掛け誘導を行っている。夜間も早めに誘導し、失禁があった場合にもホットタオルなどを使用し利用者が気持ちよく清潔を保てるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認がとれるように声掛けしているが、はっきりしない方には、体重の変化や食欲などで便秘の判断をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる 時間は複数職員がいる時間に制約されているが順番は個々に添うようにしている	利用者の気分や体調により異なるが、入浴は毎日の日課として、個別の希望をとり入れながらリラックスできる時間を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かす活動を取り入れている また体力に応じて休息がとれるようベッドの配置や長椅子がある 夕食後は刺激が少ないよう入眠につなげる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修会で薬の効能について学習した		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動で歌・ゲーム・談話・テレビ・外出行事などを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画で花見や紅葉見物を企画しているが職員配置もありゆっくりはできていないが ドライブや散歩で近所の桜や紅葉を見る支援をした 日々戸外に出かける支援をできる人は少ないため、ベランダに出て日光浴に努めた 普段行けない場所へは勤務と家族さん支援をうけ行けた	地域の行事や高齢者向け教室など、利用者が参加できる催しには参加するようにしている。介護計画にも位置づけ、体力作りや気晴らしなどのために散歩を行っている。事業所周辺の車いすでも安全に散歩を楽しめるコースを確認している。ベランダや畑も活用し外気浴を楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でもお金の管理ができなくなったため施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は番号がわからず104で確認するが見つからなかったことで思いが断ち切れた。手紙は書けなくなり代筆を頼むようになった		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的環境に配慮している 利用者の年代にあった家具などの配置もある 照明も明るすぎないように色に配慮している	居間には、利用者同士の気配を感じながら休息できるよう、ベッドを設置している。利用者が懐かしいと感じる温かみのある家具や音楽を流し、寛いだ時間が過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座れるところが数か所あり、本人の好きなところに座れるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣に合わせて家具・道具の配置がある 椅子生活のセット(ソファとテーブル・書き物ができるテーブル等)	利用者が使い慣れた家具を持ち込んでいる他、病院等からの入居で家具がない場合でも生活歴などを聞き、利用者の生活環境に近い部屋となるよう手持ちの家具などを提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどで安心して移動でき、表札で間違わずに部屋へ戻れるよう工夫している。トイレも見やすい表示がある		